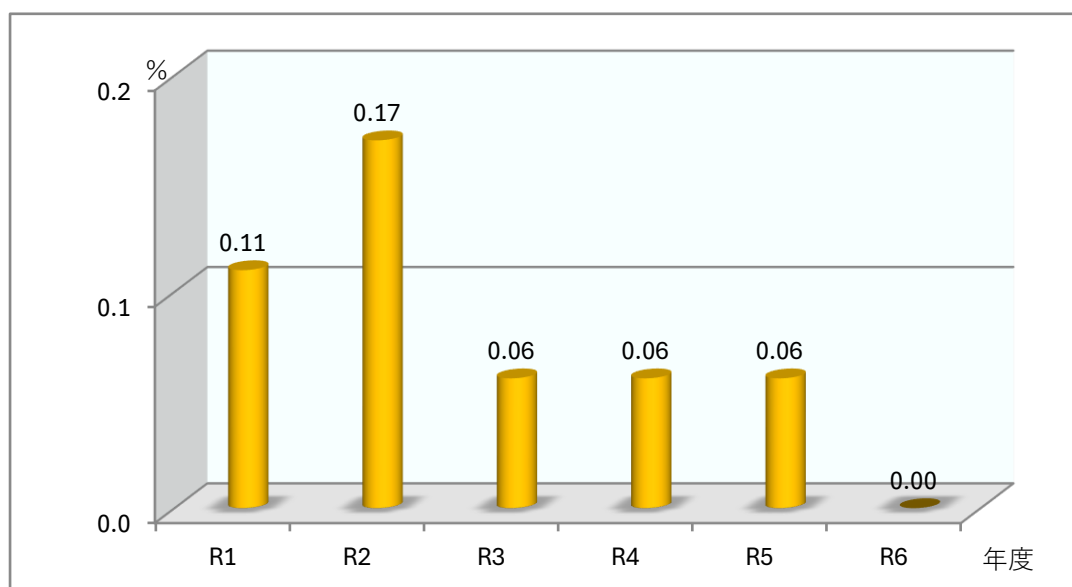


## 23-2 手術あり患者の肺塞栓症の発生率

### 解説

肺塞栓症は血栓(血のかたまり)が肺動脈に詰まり、呼吸困難や胸痛を引き起こす疾患であり、程度によっては死に至る場合もあります。長期臥床や骨盤部の手術後に発症することが多く、エコノミークラス症候群も肺塞栓症の一種ですが、入院中においては適切な診療により、かなりの部分が予防可能です。

### 実績



### 自己点検評価

減少傾向にあります。

### 定義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する、肺塞栓症の発生率(%)。

### 算式

分子:危険因子手術を行い、かつ、続発症として肺塞栓症を発生した患者数  
分母:危険因子手術を行った患者数